

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

継続は力なり？

指導課長 堀口俊雄

長続きしない私が、続けているものがある。

きっかけは、ある生命保険会社のアプリであった。1日に九千歩歩くと、アプリ画面にスタンプが押され、歩数が記録される。1週間後に抽選があり、そのスタンプが多いほど、当選の確率が上がるシステムである。当選した場合、コンビニで交換できるスモージー等のクーポンがもらえる。

試しに1週間続けてみた。さらに、運良く抽選も当選してしまった。もちろん、モチベーションが高まったこと（「歩くだけで、得するのか、健康もゲットできるなら一石二鳥だ！」）は言うまでもない。被保険者の健康を増進させることで、保険料の支払いの節約を図るという、生命保険会社の戦略に見事にはまっただけかもしれないが・・・。

次に、1か月続けることを目標にした。その次は百日というようにスモールステップで歩いた。こうやって続けていくうちに、不思議なもので、歩かないと気が済まない気持ちが芽生えてきた。雨が降っても、雪が降っても、工夫して歩いている自分がいる。そう、歩くことが習慣となったのだ。合格シールとたまのご褒美（スモージー）、そして、毎日の歩数記録の積み重ねが生んだ、私にとっての奇跡である。

「よい習慣は一生の宝」といわれる。子供にとって、生活習慣、学習習慣等は、とても大切なものである。家庭と学校が連携して、協力して、効率的・効果的に形成していく必要がある。当然、人間が相手であるので、十把一絡げとはいかない。

夢や目標を実現するためには、「続ける力」が必要である。能力や環境が異なっても、「続ける力」があれば、自分の前に立ちほだかる壁を乗り越えるパワーが生まれる。

人間には、敢えて困難なもの、時間がかかるもの、難しいものに挑戦して、より多くの達成感を得たいという本能のようなものが備わっているという。

生きることの本質を「続けること」と捉えると、定年退職を数年後に迎える私も、まだまだ身に付いていない宝となる習慣を、どうにかものにしたいと考えている今日この頃である。

北薩地区不登校対策特別講演会

11月13日(火)、文部科学省 国立教育政策研究所総括研究官 中野 澄 氏を講師に招聘し、105人の参加を得て、講演会を開催しました。(写真)

不登校の解消は、本地区の生徒指導上の重点課題の一つです。各学校では、日々、不登校解消に向けた様々な取組が行われており、不登校の新規を生まないための未然防止に視点を当てた特別活動の充実や授業改善を図ることなど、児童生徒にとって魅力ある学校となるための多くの示唆をいただきました。



受賞 おめでとうございます

地域が育む「かごしまの教育」
県民週間 表彰<標語>

学校賞 出水市立鶴荘学園

県学校環境緑化・学校林等活動
コンクール 学校林等活動の部

優秀賞 出水市立大川内小学校

県子ども会育成連絡協議会表彰

団体 蕨島子ども会育成会
(出水市)

優良少年少女団体表彰及び
優良地域高校生クラブ等表彰

団体 紫尾つ子クラブ(さつま町)
ジュニア・リーダークラブ
「出水兵児」(出水市)

九州ブロックPTA協議会表彰

団体 阿久根市立西目小学校PTA
阿久根市立大川小学校PTA
阿久根市立大川中学校PTA

北薩地区オープンサポート教科フォーラム

11月16日(金)、地区学力アップ推進会議のコアティチャープロジェクトチームが、「思考力・判断力・表現力を高める授業づくりはどうあればよいか」について、研究・実践した成果を発表しました。

今年度は、社会科、算数・数学科、外国語・外国語活動の3教科等について、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導案の作成及びモデル授業づくりに取り組みました。

各部会の成果発表後の質疑応答や意見交換では、学習指導法の改善について、活発な協議が行われました。

作成された学習指導案等は、12月に各学校2冊ずつ配布してあります。



【小学校 算数部会の成果発表】



【中学校 外国語部会の成果発表】

県・地区研究指定校公開

県・地区指定校の研究・実践の成果を紹介します。

出水市立大川内小学校 平成30年10月5日(金)

少人数・複式学級における確かな学力の定着を図る学習指導の在り方
～言語活動の充実を通して～

少人数・複式学級の特性を生かした学習過程・学習形態の工夫、ガイドの育成などを通じた確かな学力の定着、発表ボードやICT機器、発表話型を効果的に活用し国語科・算数科の授業づくりを実践していました。子供たちのいきいきとした笑顔に言語活動を通じた授業実践の成果が表れています。



【全体での交流の様子(5・6年)】

長島町立城川内小学校 平成30年10月24日(水)

わかる・できる喜びを実感できる子どもの育成
～生き生きと算数科を学ぶ姿を目指して～

深める過程において、「協働的な学習の場」を意図的に設定し、前時までの学習との相違点を意識させながら考えさせ、互いの考えを練り合わせる取組は、とても参考になります。また、学校全体で算数科の環境作りに取り組み、子供たちの関心・意欲が日常的に高まっている姿を感じました。



【ホワイトボードに考えを書く様子】

薩摩川内市立樋脇小学校 平成30年11月15日(木)

お互いのよさを認め合い、意欲的に学び合う子供の育成
～学業指導の充実を通して～

学習の基盤となる学習のしつけに着目し、学校全体で「当たり前」のことを、当たり前続けることを大切にしています。特に、発表話型カードや相づちカードの取組は、深める過程での対話を促し、子供たちが意欲的に話し合いを行う手立てとして、とても参考になります。この取組を通して、自分の考えに自信をもち、自己肯定感が高まっています。



【相づちカードを使う様子】

薩摩川内市立育英小学校 平成30年11月27日(火)

確かな学力を身に付け、主体的・対話的に学び合う
算数科の授業の創造

学校全体で、算数ノートの書き方を共通実践し、自分の考えを記述させた上で、互いの考えを練り合わせる手立ては、とても参考になります。また、終末において取り組ませる適用問題は、授業での学びを生かしたものを準備し、子供自身に選択させ、学習内容の定着を図る素晴らしい取組で、この継続した取組が学力向上へとつながっています。



【自分の考えを記述する様子】

長島町立鷹巣小学校 平成30年11月30日(金)

可能性に目を向けて思考できる子供を育てるための授業づくり
～算数科における対話を重視した学習指導を通して～

算数科の練り合いの場面で、対話を重視し、理由や根拠を問わせる工夫、子供の思考を可視化する工夫、よりよい解き方を考えさせる工夫、子供の思考を揺さぶる発問の工夫が実践されており、学びが深まっていく様子がよく分かる授業づくりが行われています。中学校と連携した授業づくりの基盤となる学習のしつけの徹底とキャリア教育に視点を置いた特色ある教育活動も成果が表れています。



【考えの交流】

「学校支援活動」⇒「地域学校協働活動」
～地域で子どもたちの学びや成長を支え、ともに、活力ある地域づくりを目指します～

背景の

- ・ 地域における教育力の低下、家庭の孤立化
- ・ 学校を取り巻く問題の複雑化・困難化(いじめや不登校、貧困等)

対応

- 社会総掛かりで対応
- 地域と学校がパートナーとして連携・協働
- 組織的・継続的な仕組が必要不可欠

学校は

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域の人的・物的資源の活用や、社会教育との連携を図り、学校教育を学校内に閉じずに、社会教育と共有・連携しながら実現させることが必要です。

〔12月は不祥事防止強化月間です!〕

年末年始を迎え、慌ただしさが増してくる時期となりました。教職員として普段以上に冷静に、自らを律することが求められています。

- 1 飲酒運転の根絶、交通事故等の防止
翌日、飲酒運転とならないよう留意し過度な飲酒は控えましょう。
- 2 体罰の禁止
児童生徒の人格を傷つける決して許されない行為です。
- 3 わいせつ行為の根絶
人としての尊厳を傷つけるもので児童生徒、保護者の受ける心の傷は計り知れません。また重大な非違行為です。
- 4 ハラスメントの防止
セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント等は人格や尊厳を傷つけるものです。相手への思いやりをもった言動を心掛けましょう。

編集後記

北薩教育事務所では、全ての小・中・義務教育学校の管理職の先生方に執筆を依頼して、「北薩の風～管理職からのメッセージ～」を発売しました。御協力に厚く御礼を申し上げます。多くの先生方、是非御覧ください。

良質な教育環境づくりへのアドバイス④

今年度、学力アップ推進委員として、分かる授業づくりのために頑張っておられた30人の先生方の姿に、改めて学力向上の重要性と指導者としてのプロ意識を強く感じることでした。推進委員の「他校の先生方と語り、議論する中で、刺激を受け、自分も成長しました。」との言葉が、心に響きました。